

ふるさと周南ウォッチング

初夏の周南路
八十八ヶ所巡り〔附属寺(六手)〕と
宮下川のニッコウキスゲ



主催・資料作成：ふるさと運動実行委員会・周南公民館

～紹介ルート～

□周南公民館 → ～農協と小学校の間から～ →
宮下 → 六手 → □六手公民館 → □附属寺 →
□八幡神社 → □花巖院 → □常代神社 →
～ローソン裏から宮下川沿いへ～ □中学校裏 →
□周南公民館

- 道中、自動車と接近する箇所があります。十分に気をつけてください。
- 掲載している施設、個人所有の樹木は管理されている方にお断りして見学をお願いします。
- 本資料は平成 30 年 6 月 17 日時点での情報を掲載しています。

ふるさと周南ウォッチングとは？

周南公民館開館以来、周南地区と周南公民館で取り組まれてきた「ふるさと運動」。その中では地区（自治会）ごとの歴史や文化を綴った「ふるさと誌」や、「ふるさと地域手づくりマップ」「散歩マップ」「すなみ巨樹・古木・名木マップ」など、さまざまな記録や貴重な資料が地域のみなさんの手でつくられてきました。

平成24年度に「開館40周年記念事業」として、これらをもとに周南地区内を実際に歩いて訪ねようと企画されたものが『ふるさと周南ウォッチング』です。企画当初から、継続して50周年につながる取り組みを！との声もあり、また、参加されたみなさまからも期待の声が多かったことから、毎年1回実施されることとなりました。



これまでの「ふるさと周南ウォッチング」は…

H24. 09. 29 第1回

馬登伝統の神事「獅子神楽舞」・巨樹古木・上総掘りの井戸・オーム岩

H24. 11. 17 第2回

タイムスリップ～江戸・鎌倉・古墳～地域の歴史を訪ねて（浜子・小山野）

H25. 02. 02 第3回

地域の巨樹古木を訪ねて（常代・六手）周南小学校・六手八幡神社・附属寺 他

H25. 12. 07 （関連実施）

第5回「共に学ぶ市民の集い」（浜子・小山野）

H26. 04. 12 第4回

春の日差しを浴びながら…馬登のシダレザクラを訪ねる（皿引・尾車・草牛・馬登）

H26. 12. 14 第5回

六手の遺跡群を訪ねる（小学校裏～六手方面）鹿島台遺跡・狐山古墳 他

H27. 06. 20 第6回

ニッコウキスゲが咲く宮下川を歩く（大山野・宮下・常代）宇賀神・遍照寺と春日神社

H28. 12. 11 第7回

鎌倉道を巡る～岩富寺・小山野城（二城）跡～

H30. 01. 28 第8回

草牛・鹿野山を歩く～草牛八幡神社・車地藏（六手野）・鹿野山への古道～

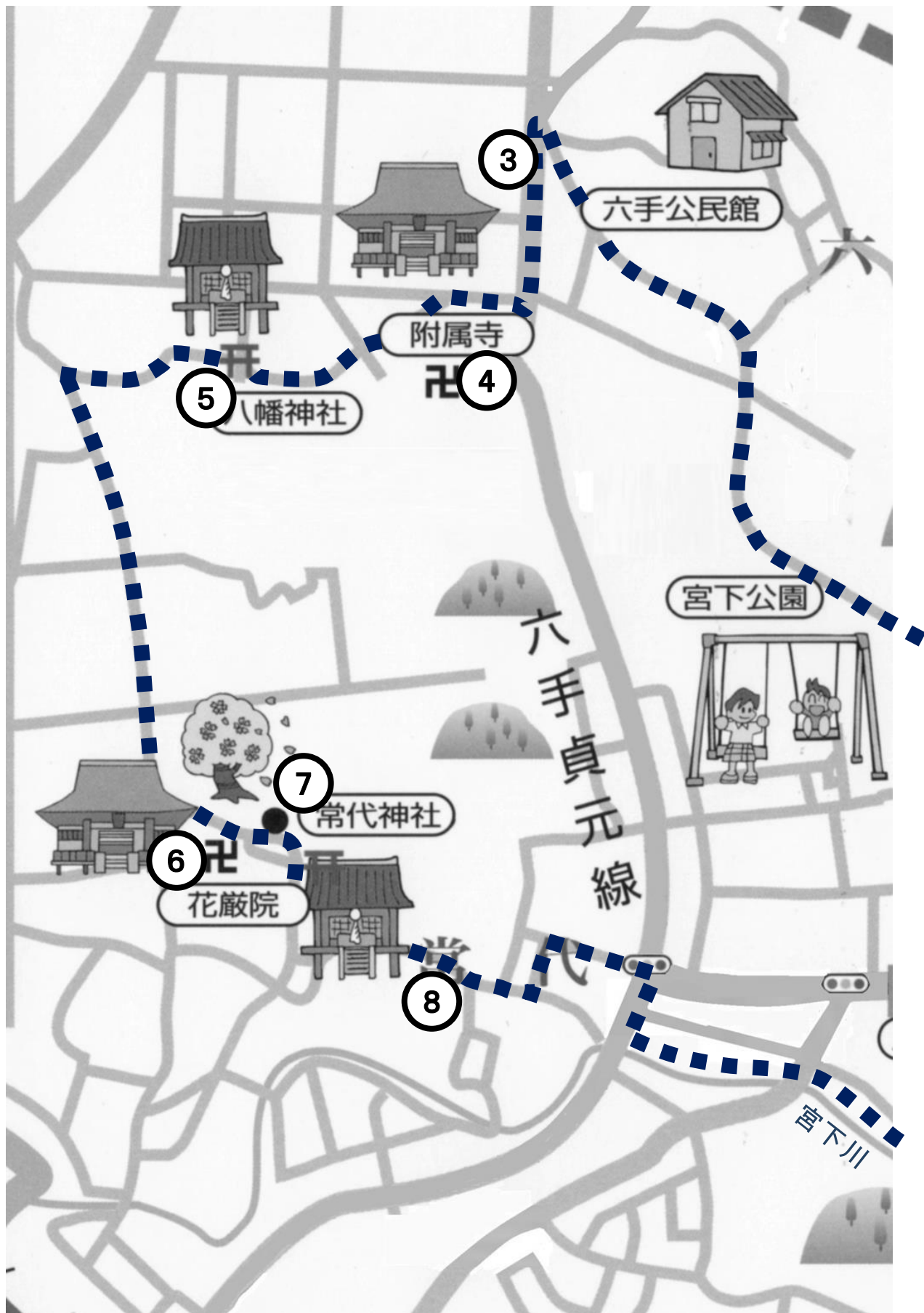
H30. 06. 17 第9回

初夏の周南路 八十八カ所巡り〔附属寺（六手）〕と宮下川のニッコウキスゲ

R1. 09. 29 第10回（台風により中止）

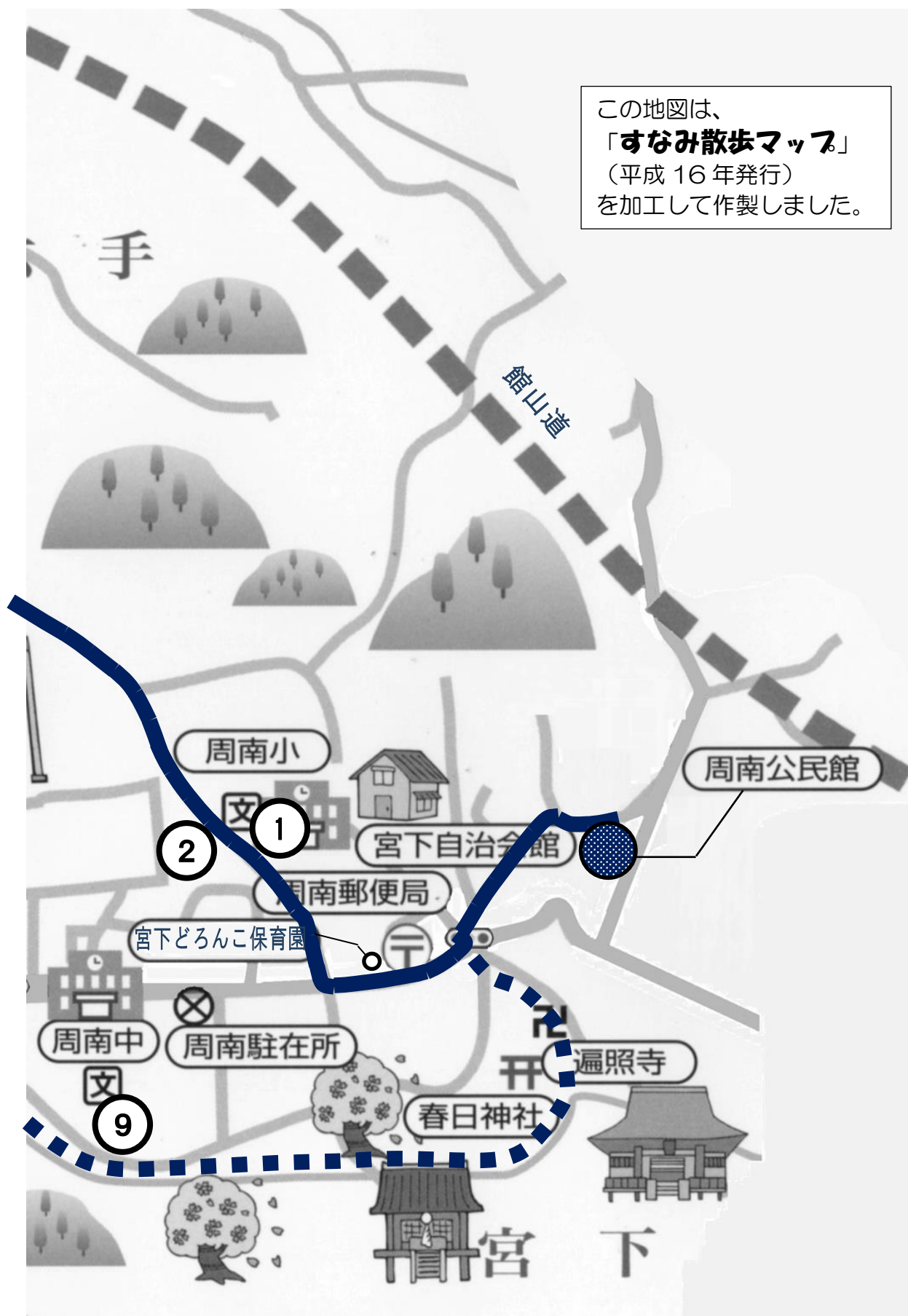
周南の絶景と馬登の獅子神楽を訪ねて

今回のルート



数字は、道中の見所や解説箇所です。
詳しくは、この後のページをご覧ください。

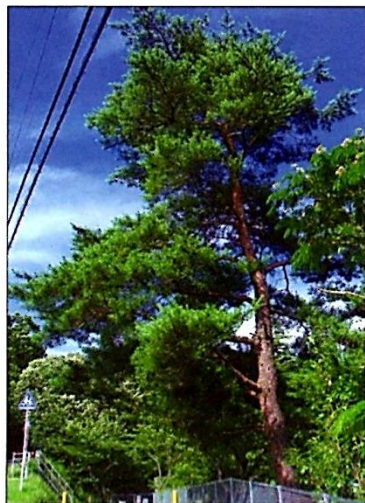
この地図は、
「**すなみ散歩マップ**」
(平成 16 年発行)
を加工して作製しました。



見どころ・読み物 いろいろ

～ご帰宅されてから、ゆっくりとお読みください～

① 樹木マップNo.4 アカマツ

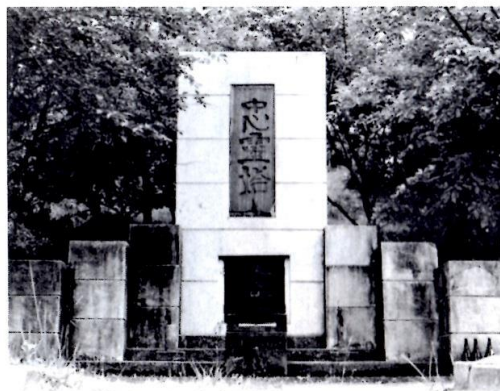


④ アカマツ

宮下 周南小学校

クロマツは海岸、アカマツは山手に生育しています。

松くい虫の被害で殆どの松が枯れましたが、残っている物は昔の環境を知る上で大切な樹木です。



ふるさと誌宮下の巻 掲載の忠霊塔の写真

② 忠霊塔

手前は昭和二十八年、その前には、平成十二年につくられた碑があり、周南での戦死者を祀っています。

さらに奥には、日清・日露戦争の戦死者の碑などがあります。また、忠霊塔の下には、防空壕のあとみられます。

【ふるさと誌 巻八 宮下の巻 75頁より】

日清・日露から昭和までの、各戦役に、国のため、わが郷土のために出征して、戦病死された軍人、軍属の忠霊塔が、宮下字揚屋四八二番一の高台に祀られている。

その塔の「忠霊塔建設記」には、

大東亜戦争ハ曠古ノ国難ナリ。前後八ヶ年ニ亘ル此ノ戦役ニ於テ、本村出身ノ軍人、軍属ニシテ戦死病没セル者七〇余柱ノ多キニ達ス。是等殉国ノ英霊ニ對シ、屢々忠霊塔建設ノ議アリシモ終戦前後ノ情勢ハ容易ニ基ノ実現ヲ許サザリギ。待望ノ講和条約発効ノ共ニ挙村此ノ議ノ遂行ニ邁進、忠霊塔建設奉賛会ヲ結成シ諸々ノ計画ヲ立テ工事ニ着手ス。

昭和二十八年八月起工、同年十二月竣工、經費概算三〇萬円内一〇萬円ハ村費支辨、其ノ他ハ村民ノ浄財寄及勞力奉仕ニ依ル。

表面忠霊塔ノ文字ハ、九二歳ノ老文豪徳富蘇峯翁ノ揮毫ニ係ル。

茲ニ銘記シテ深甚ノ謝意ヲ表ス。

昭和二十八年十二月、奉賛会。

と明記されている。

又忠霊塔の上には、日清戦争で三名の殉難記念碑と、二名の両哀記念碑が祀られ、日露戦争の八名の忠霊塔が祀られている。

③-1 里山の景観

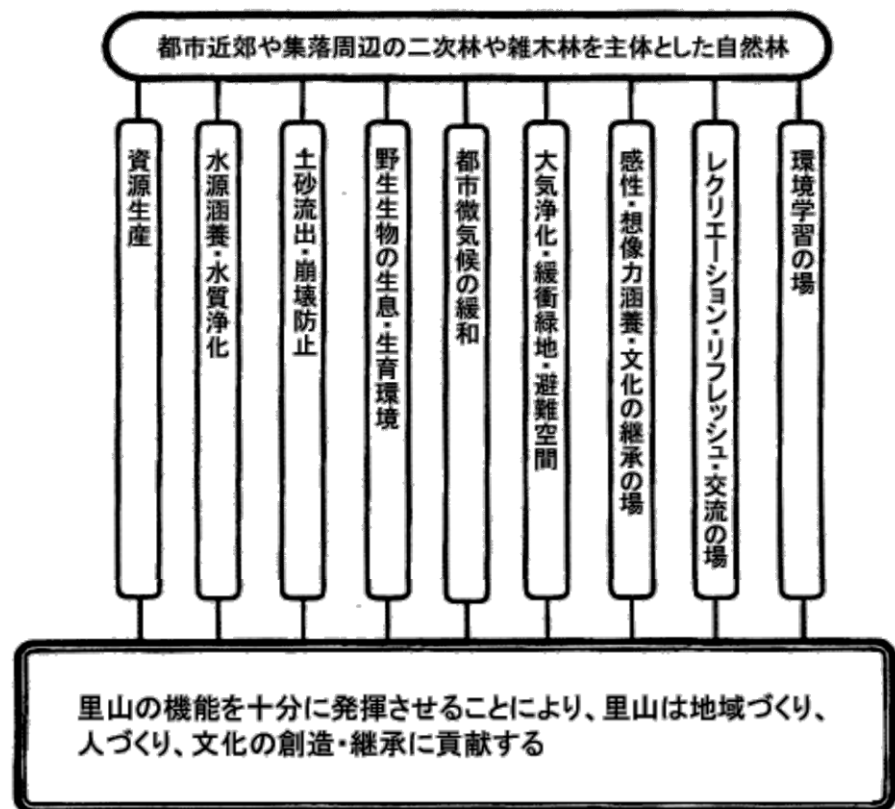
里山は、長い時間をかけて人々が自然と寄り添いながらつくりあげてきた日本の原風景の一つです。田んぼや小川、原っぱ、うら山などは食料や木材など自然資源の供給場所でした、又草花や鳥、昆虫などさまざまな生きものたちが、あたりまえにそばにいる空間でした。

そうした環境がより身近な存在であったことから、特有の文化や豊かな感性も育まれてきました。

しかし、燃料革命以後里山に頼らなくても生きていける時代が来ると、里山は放置され当地区では孟宗竹林が広がり里山景観が変わりつつあります。

(小池英憲)

里山の機能



(経済学部 30391171 本田しおん)

③-2 樹木マップNo.12 スギ



12 スギ 六手 熊野神社

六手の田んぼの中で頑張っているスギです。

近くを高速道路やバイパスが通り、ますます環境が悪くなりましたが、長生きしてほしい木です。



④ 附属寺

【君津町誌（君津町誌編集委員会発行）後編 209頁より一部抜粋】



君津町誌 掲載の本堂の写真

この寺の開基は詳らかではないが、少なくとも室町時代の中期（応仁～文明のころ＝1467～1468）に源宗上人によって中興され、江戸時代にはこの地を支配していた旗本の御手洗、寛、河内等の帰依をうけ、隆昌を誇ったといわれ、境内も往時は170アールをこえていたことからその宗勢がしのばれる。

しかし、明治維新に吹きあれた廃仏棄釈の嵐によって広い境内も、県や国有地となり、20アールへと減少した。

…堂塔伽藍では、山門、本堂、庫裏、長屋、六角堂（大師堂）などがのこり、君津町内では伽藍の最もよく整備保存されている一例であり、境内を囲む丘陵に点在する「石造美術」にも見るべきものが多く…。

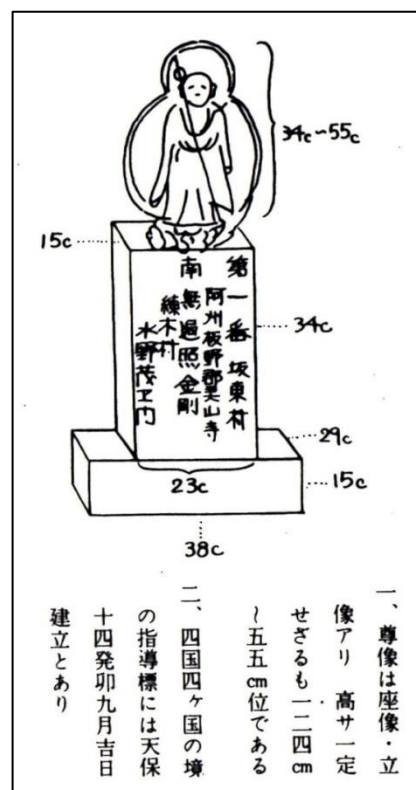
【君津町誌（君津町誌編集委員会発行）後編 404～407頁より一部抜粋】

再興新四国八十八ヶ所の沿革 君津町六手 不波山附属寺

四国路を往く時、老若男女が身に白衣をまとい、白い手甲脚絆 菅笠に金剛杖、南無大師遍照金剛と唱えつゝ行き交う遍路の人に出会うことでしょう。この人達はみな業障懺悔のため、大師の遺跡八十八ヶ所の霊場を参拝する四国遍路の人々の姿である。往昔より今に至るまで、四季を通じて絶えることはないと言う。

だが、老幼婦女子で、霊場を巡拝できない人々のため、これに模し、八十八ヶ所の霊場を勧請して、巡拝に便ならしめたものが全国には幾ヶ所がある。当山の新四国八十八ヶ所移しもまたその一つであり、郷土の人達のために、第二十九世周具師が自ら同信の者を従えて、四国八十八ヶ所の霊場を巡拝、各霊場の本尊を勧請して、新たに再興されたもので、本尊の礎石には現地霊場から持参された石片が安置されている。今は紛失を恐れて取りはずし、別に保管されている。

八十八ヶ所は境内一帯にわたり、霊場遍路にか



たどり安置され、山を登り坂を下り、杖を頼りに大師のみあとを慕いつつ
往く遍路の思いを彷彿させるに足りるものがあるでしょう。

しかも天保天保3(1832)年4月から天保14(1843)年9月に至る長期
にわたり、この浄業達成のため当時の信者が終始いかに敬虔な気持ちで努
力されたか、一度ここに思いをいたす時、頭の下る思いがあるでしょう。

参拝巡路入口指導標			
(正面)			
再興新四国 八十八カ所移			
主		願	
飯野 喜太郎 榎本 宗吉 相川善右エ門		ミノヲ 鈴木 政吉	
セ 糟谷治良兵エ 岡田傳 傳吉 石井 金右エ門		同 富沢 紋右エ門	
(右側) 村 ハ 前田甚右エ門 能城 仁右門 トッショ 松本 五右エ門		カ子ヲカ緒志 啓兵エ	
人 能城政右エ門 大野治右衛門 酒 屋 幸 助		ハラ 石井 金右エ門	
高浦 茂兵エ 中村 与兵エ 福田 政右エ門		子リキ 水野 宗右エ門	
		トコシロ高間 新五郎	
		子リキ 水野 茂左エ門	
		ミノヲ 立川重左エ門門	
		六手 能城 喜右エ門	
(左側)			
附属寺二十九世現住周見			
人見邑 石工 白井常治郎			
櫻井村 石工 大野吉 五 良か			
(裏側)			
天保三壬辰四月二十一日			

樹木マップNo.11 シダレザクラ



14 シダレザクラ
六手 附属寺

季節には清楚で可憐な花が沢山咲き、春を感じます。シダレザクラは巨樹ではありませんが、古木として貴重な樹木です。本寺では、多くの古木が楽しめます。

市指定文化財（建造物）

ふ ぞ く じ だ い し どう
附属寺大師堂

所在地／君津市六手 501

所有者／附属寺

指 定／昭和45年9月21日

員 数／1棟



ほうぎょうづく どうばんぶき 宝形造り、銅板葺の六角堂である。現在、軒は二軒の扇垂木となつてい
るが、屋根の改修以前は一軒であった。柱間は一辺2.82m、床高は50cm
である。周囲には幅90cmの回縁が付く。なお、高欄については、近年の
補修時に付加されたものである。

柱は上部が粽となる円柱で、粒石基礎の上に建てられ、これを長押で
押さえ、頭貫と台輪で結ぶ。柱上は和様の出組斗拱を用いている。正面入
口は双折両開きの棧唐戸、入口左右の各一間のところに火頭窓がつく。

内部は一室空間で、床は拭い板敷、天井は格天井で中央に弘法大師坐像
を安置している。

この六角堂は、天保4年（1833）に三直村（市内三直）の宮大工であつ
た平野善六によって改築されたものであり、江戸末期の標準的な堂塔架構
として注目すべき建造物である。

【君津市の文化財（君津市教育委員会 平成22年発行） 11頁より】

⑤ 八幡神社

【ふるさと誌 巻四 六手の巻 3頁より一部抜粋】

八幡神社は部落の北部を流れる小糸川沿岸小丘地帯の一角にあって、後背に四基の古墳と凡一町歩余の畑地がある。

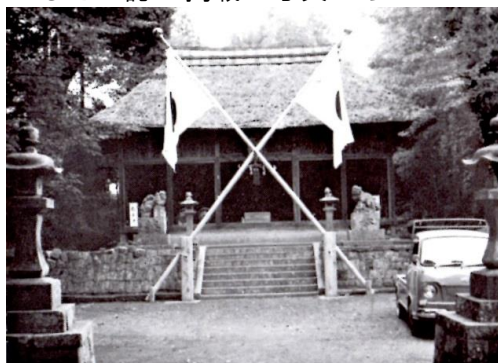
…神社の東南部は六手の穀倉地帯として凡四十余町歩の水田が開け、東方100米程の地点に神輿塚径10米高さ2.5米がある。

西方丘陵地には二基の古墳(各径10米位)と古墳らしき一台地がある。…

このような立地の中にある八幡神社は創建年代不詳なれど、おそらく部落草創からの鎮守で、土地の開拓者が村の鎮として祀り続けてきたものと考えられる。

中世の鎌倉期に至り、八幡信仰が普及し祭神に応神天皇(誉田別命)を祀り、武神としての性格が強調されたようだが、八幡信仰の本来の姿は水に関係のあるものとされている。

ふるさと誌 掲載の写真から

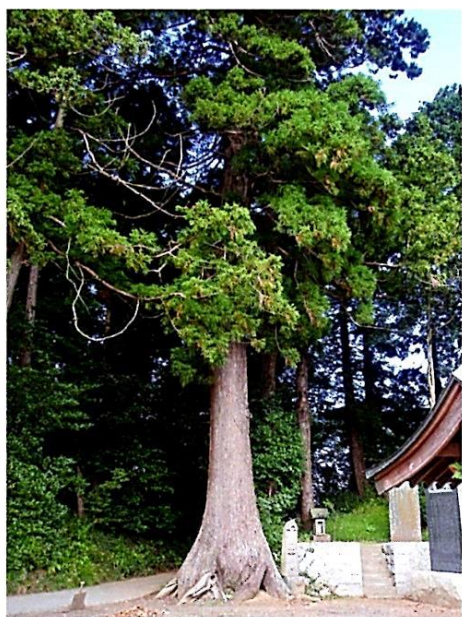


八幡神社大祭



八幡神社内陣

樹木マップNo.13 スギ



⑬ スギ

六手 八幡神社

本神社は、鎌倉の鶴岡八幡神社より分霊を迎え「鶴舞の宮」として創建された歴史があります。

ご神木のスギは「鶴舞の大杉」として親しまれ大切にされています。

⑥ 花巖院

【ふるさとマップ 掲載の写真から】

【ふるさと誌 巻九 常代の巻
35頁より一部抜粋】

花巖院は、真言宗豊山派に属し、大和の「長谷寺」を総本山としている。当山の創建及び沿革については、詳細な史実は明らかではないが、寺伝によれば、平安時代末期に開かれたと伝えられ、以後、幾多の盛衰を経て今日に至っている。

古代社会における花巖院の歴史的沿革を考察するにあたっては、当山鎮守の「常代神社」の存在が大きなウエイトをしめているものと思料される。

さて、当山中興の祖は僧俊円で、寛文7（1667）年11月に遷化している。したがって俊円の生年は、おおむね江戸時代初期ごろと推察され、師を中興第一世として現在で第二十一世を数える。

次に名称であるが、現在は「羽黒山花巖院」と称しているが、近世文書の中に「羽黒山花巖院天王寺」とも記されていることから、かつては「天王寺」と称したこともあったと思われ、のちに「花巖院」の院号が寺名として定着したと思われる。

本尊は大日如来で、一部欠損しているもののおだやかな面相を示し、全体的にバランスの取れた像容である。本尊両脇には、弘法大師、興教大師の両大師が安置されており、記録によれば、江戸時代初期の作と思われる。

この他、特筆すべきものとしては、大日如来の教令輪（使者）としての

後藤義光作のみことな龍の彫刻。
その昔は風が吹くと
ヒューヒューと鳴ったそうむ。

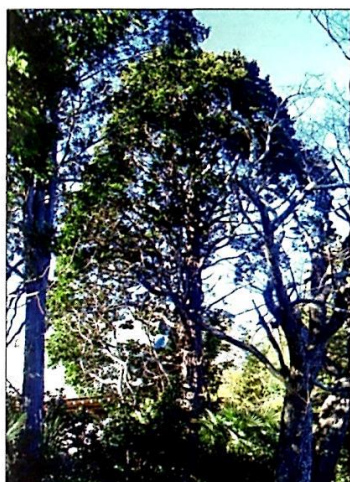


花巖院



六地藏

樹木マップNo.9 カマクラヒバ



⑨ カマクラヒバ 常代 花巖院

平安時代末期に開かれた由緒ある寺で地域の方々の信仰を集めています。院の回りにはサクラ等多くの木があり本樹は庭木として植えられた物が大きくなったと思われます。

不動明王像（像高約90cm）がある。

札所としての当山の位置付けは、四国八十八ヶ所移上総国札及び小糸作札では、阿波国地蔵寺移第五番の札所となっており、御詠歌は「六道の能化の地蔵大菩薩導き給えこの世後の世」が伝えられている。

⑦ 常代神社

【ふるさと誌 巻九 常代の巻 27頁より一部抜粋】

平安期に編集された三代実録元慶元年記に「上総国従六位上常世神ニ従五位下ヲ授ク」と記された国史所載社で、上総国古六社の一つとして崇敬を受けて来た由緒ある神社である。

御祭神は穀物神として神徳高い倉稻魂命で、又の御名を豊受姫大神、保食神とも申し上げる代表的な農業神である。

常代神社の在るこの聚落（以下、集落）は、すでに千数百年前からの古い歴史があり、神社の周辺には十基余の円墳と数基の横穴墳等の遺跡がある。おそらく常代草創の遠祖を被葬する墳墓と考えられている。

神社名、集落名共に「常代」と書いて発音を異にしている。

即ち神社名は「トコヨ」で集落名は「トコシロ」であるが、これは中世になって「世」が「代」に改変して発音が誤り伝えられたものであろう。

江戸時代別当寺の羽黒山花厳院が焼失した為古文書の類は一切無いが、本殿に一枚小棟札が蔵されている。

天保4（1784）年5月の記録で、この時本地佛の不動明王の尊像を彩色し社殿を改築していることが判る。

この神社は曾って出羽国の羽黒信仰と複合した事から羽黒神社と呼ばれ、別当寺の山号も又羽黒山である事から、中世には此の地方はかなり盛んな羽黒修験の影響を受けていたものと察せられる。

明治4（1871）年神社古絵図には「常世神社」と記されているのを見れば、中世以後は羽黒、常世両様に社号を用いていたのではないかと推測される。

その後、明治12（1879）年10月神社明細帳を千葉県に提出するに当り「常代神社」と書き換えられたものゝようである。



9月の例大祭における 湯立て神事（平成24年撮影）

⑧ 樹木マップNo.8 スタジイ



⑧ スタジイ 常代 川名さん

住宅地の真ん中に、トトロの森を感じさせるシイの木が元気に生育しています。自然樹形でしたら、現在の2倍ぐらいの大きな木になっているでしょう。

⑨-1 宮下川のニッコウキスゲ

【周南公民館報「ひろば」2017（平成29）年9月第251号の紹介記事より】

宮下川のニッコウキスゲは、「宮下緑地をきれいにする会」のみなさんによって整備されています。

この会は、平成元年ごろ地元の有志の集まりで、周辺の散策をみなさんが楽しむことが出来るようにと、宮下川周辺の草刈りやゴミ拾いなどを行い、まちづくりや地域の活性化を図ってきたそうです。

会員は現在37名で運営され、整備や手入れを重ねて、今では宮下川の両土手に毎年1500株のニッコウキスゲが咲き誇るようになりました。

⑨-2 樹木マップNo.2 ポプラ



② ポプラ 宮下 周南中学校

運動場の端に植えられた木で、天に向かって大きく伸びています。

樹齢は若い木ですが、樹高が周南地区で最も高い木と思われます。

今回、参考・引用した

『ふるさと誌』・『ふるさと地域手づくりマップ』

『すなみ巨樹・古木・名木マップ』

などは、周南公民館で見ることができます。

興味をもたれた方はぜひご活用ください。

